

<p>1 学校教育目標</p> <p><教育理念> 地域の特性を生かし、国際化の進展に対応した学校づくり</p> <p><教育方針> 6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、生きる力を育み、誇りと自信をもって世界に飛躍する人材の育成を図る。</p> <p><教育理念を具現化する4つの特色ある教育システム></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学力を大きく伸ばし、希望進路を実現する6年一貫の効果的な教育課程 2 世界に飛躍する人材を育成する語学教育と国際理解教育 3 豊かな人間性と主体性を育むチューター制・生徒会活動・部活動 4 大学や企業、公共団体等と連携した教育活動の推進

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>豊かな人間性と確かな学力を育成するため、中高一貫教育の特色を生かした教育活動の一層の充実を図っている。これまでの取組をより充実させるとともに、プロジェクトチームやタスクフォースチームで様々な新しい取組の検討や提案を行った。</p> <p>(1) 確かな学力の保証</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6年間の系統的な教科指導体制の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・6年一貫のメリットをより一層生かすための新しい教育課程の編成、各教科におけるシラバスの見直しなどを行うとともに、アクティブ・ラーニングの取組を進めているが、さらに進めるために研修体制を充実させる必要がある。 ○基礎・基本の確実な定着と発展学習の充実による応用力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・多くの授業で、きめ細かく小テストを実施したり課題を与えたりして、基本的事項の定着を図りながら授業を進めた。数学・英語の習熟度別授業では、それぞれの学力層に焦点を当てた指導の工夫を行っている。 <p>(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすきめ細かな指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・チューター制のメリットを生かし、きめ細かな個別指導を行った。 ○明確な進路意識を醸成するキャリア教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア講演会やキャリア調査の実施、キャリアファイルの整理等によってキャリア教育の充実に努めた。また、「海峡学」を柱とした高大連携の取組を開始した。 ○進学実績の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・後期課程各学年において進路検討会を複数回実施し、学年指導、個別指導に生かした。 ・今後、模擬試験を有効に活用する工夫を具体的にを行うとともに、受験に向けての意識や取組の遅れという課題に対応する必要がある。 ○新たな大学入学者選抜制度に対応した、より進学を重視した学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・より進学を重視した教育課程の編成やクラス編制の工夫を行うとともに、主体性や協同性を育む授業や活動の工夫、資格取得を促進する体制づくりを行った。 <p>(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身につけた生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性と行動力を持ち、社会に貢献できる人材を育む学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動、委員会活動など生徒が主体的に活動できる場を多く設定した。それぞれの活動において、生徒は同級生や異学年の生徒と関わり、様々な工夫をしながら積極的に活動した。 ○国際交流活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・中国や韓国からの訪問団の受け入れ、姉妹校交流、世界スカウトジャンボリーの地域プログラムにおける交流など、本年度も多くの国際交流活動を実施し、生徒は積極的に交流を行った。 ○体験的・探究的活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間「海峡学」において、フィールドワークや職場体験を実施するとともに、各学年において、様々なテーマで課題発見・追究・発表という探究活動を行った。研究については、大学からのサポートも受け充実に努めた。 <p>(4) 組織としての課題解決力の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○危機管理体制の改善・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時における緊急メールや文書等の情報発信をきめ細かく行うとともに、様々な問題に対して組織的な対応に努めた。 ○計画的な研修による教職員の資質向上 <ul style="list-style-type: none"> ・AED講習、綱紀保持についての研修等を実施した。 <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広報活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学校通信「飛翔」の内容の充実、ホームページのリニューアルの準備を進めた。 ・担当を一元化し、より組織的で効率的な取組を行う必要がある。 ○業務の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・会議の精選や、職員会議の議題の精選などを行った。 ・職員会議の運営について、さらなる効率化の工夫を行う必要がある。 ○組織の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・分掌横断的なプロジェクトチームやタスクフォースチームを立ち上げ、様々な課題に機動力をもって対応した。

<p>3 本年度重点目標</p> <p>(1) 確かな学力の保証</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6年間の系統的な教科指導体制の推進 ○教育課程のさらなる改善 ○アクティブ・ラーニングによる主体的・協働的な学びの推進 ○ステップアップノートなど予習、授業、復習の徹底による学習習慣の確立 <p>(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすきめ細かな指導の充実 ○総合的な学習の時間「海峡学」などによる明確な進路意識を醸成するキャリア教育の推進 ○進学実績の向上 ○新たな大学入学者選抜制度に対応した教育内容の充実 <p>(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身につけた生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性と行動力を持ち、社会に貢献できる人材を育む学校づくり ○国際交流活動や留学の推進 ○生徒会・学校行事等におけるリトル・ティーチャー制の推進 ○ボランティア活動の推進 <p>(4) 組織としての課題解決力の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○危機管理体制の改善・充実 ○計画的な研修による教職員の資質向上 <p>(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会の充実 ○学校HP・マスメディア等を活用した情報発信の充実 ○おいのやまサイエンスセミナー、小学生英会話教室の充実
--

4 自己評価				5 学校関係者評価			
分掌	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	新HPの立ち上げと更新システムの確立	年間更新計画を作成し、定期的な確認と迅速な更新を実施する。	4 計画に基づき、更新を円滑に実施した。 3 計画に基づき、更新を概ね円滑に実施した。 2 計画に基づいた更新をほとんど実施できなかった。 1 計画に基づいた更新を全く実施できなかった。	4	○ 年度当初に新HPに刷新できた。 ○ 計画的・定期的に更新し、一月末で更新回数は50回、閲覧回数は3万回を超えた。	HPが充実し、閲覧回数も昨年度に比べて大幅に増えている。	A

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	希望進路実現のための現行教育課程の更なる改善	生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けた科目選択ができるよう、教育課程検討委員会等で教育課程の改善に努める。	4 教育課程検討委員会等を行い、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選を十分に図った。	4	○ 前期課程の授業時数の教科配分を見直し、改正を行った。 ○ 後期課程では生徒の希望進路の実現に向けた科目選択や授業時数の配分を検討した。	中高一貫校の利点を生かした特色ある教育課程の編成が為されている。	A
			3 教育課程検討委員会等を行い、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選をほぼ図った。				
			2 教育課程検討委員会等を行ったが、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選が図れなかった。				
			1 教育課程検討委員会等を行わなかった。				
	教員による科目選択指導の充実	各科目の特徴や大学の入試科目を理解させ、将来を見据えた科目選択につなげていく。	4 生徒に向けた科目選択に関する説明会を、2回生以上の学年で年9回以上行った。	3	○ 希望進路実現に向けた指導の充実のために、各学年で科目選択ガイダンスを行った。 ○ チューターと連携し生徒一人ひとりに応じた科目選択指導を行った。	教員によるきめ細かな指導が行われている。今後も生徒一人ひとりに応じた科目選択指導ができることよい。	A
			3 生徒に向けた科目選択に関する説明会を、2回生以上の学年で年7回以上行った。				
			2 生徒に向けた科目選択に関する説明会を、2回生以上の学年で年5回以上行った。				
			1 科目選択に関する研修会や説明会を、ほとんど行えなかった。				
	ステップアップノートなど学力向上の取組推進	ステップアップノートの意義を理解し、日々の学習活動を進める中で学力向上を図る。	4 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均して年間1.5ポイント以上向上した。	3	○ 前期課程は学力推移調査（4月→11月）、後期課程は進研模試（7月→1月）の偏差値の伸びを測定し、平均すると1.25ポイントの向上が見られた。 ○ 保護者アンケートでは、「学力向上を図るための学習指導が必要である」との回答割合が6学年平均で64%であった。	学力向上に熱心に取り組んでいる。家庭学習の習慣を定着させる工夫が必要である。	B
			3 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均して年間1ポイント以上向上した。				
			2 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均してほとんど変化しなかった。				
			1 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均してマイナスとなった。				
生徒指導	生徒会活動・学校行事におけるリトルティーチャー制の推進	生徒会活動、学校行事等で、リトルティーチャー制を取り入れ、上級生から下級生への仕事の指導や計画的な引き継ぎにより、学校行事や生徒会活動などを活性化させる。	4 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が80%以上である。	4	○ 全生徒の80%以上が上級生が下級生に親切に仕事を教えているという認識があり、1回生は特に96%という高い割合になっている。 ○ 野球応援や生徒会主体のリーダー研修会、専門委員会における縦割り班の活動などさらに先輩から後輩へ色々な仕事を引き継ぎ、中高一貫の良さをさらに伸ばし、生徒会活動・学校行事の活性化をめざしたい。	生徒会活動が充実している。生徒が主体的に取り組めるよう学校行事の一層の活性化をお願いしたい。	A
			3 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が60%未満である。				
	ボランティア活動の活性化	校内や校外でのボランティア活動など、地域に目を向けた活動を計画・実施する。	4 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が80%以上である。	3	○ 全生徒の70%以上がボランティア活動が盛んだという認識がある。 ○ ひこっとランド海岸清掃ボランティア・熊本地震義援募金活動・歳末たすけあい募金活動・収集ボランティア・トイレ掃除ボランティアなど生徒会主体で活動した。生徒主体となる自主的な企画が一層出てくるとよい。	ボランティア活動に熱心に取り組んでいる。地域と連携したボランティア活動についても積極的に取り組んでもらいたい。	B
			3 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が60%未満である。				
	挨拶を含む生徒のマナー・規範意識の向上	交通安全指導、あいさつ運動、情報モラルや薬物乱用防止の講演会を通して、ルールからマナー・エチケットへと意識改革を高めるとともに人権意識の高揚を図る。	4 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が80%以上である。	4	○ 生徒・保護者の90%以上という高い割合で、校則を守っているという認識がある。 ○ 生徒会執行部、生活委員会が中心となって、朝のあいさつ運動を行っている。生徒会執行部が月・水・金の週3回、生活委員会が火・木の週2回昇降口前に立って通り過ぎる生徒に挨拶を行っている。ただし、明るい笑顔あふれる挨拶という点では課題が残る。	生徒が高い規範意識をもっている。校則を守っているという認識が100%となるよう今後も指導をお願いしたい。	A
			3 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が70%以上である。				
			2 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が60%以上である。				
			1 生徒による学校評価アンケートの校則が守られているという結果が60%未満である。				
前期課程における人間関係づくりの推進	学期に1回人間関係づくりの学年活動をし、生活ノートを通じ、毎日の生活について相談・指導をする。	4 学期に1回人間関係づくりの学年活動ができ、生活ノートで、毎日の生活について相談・指導ができた。	4	○ 今年度からの重点目標であり、人間関係づくりにおける活動も各学年で工夫し、目標は、達成されている。今後さらに内容を深めていきたい。 ○ 特に1回生では、入学してすぐに生徒会を中心にボランティアを募り、体験学習（PA:プロジェクトアドベンチャー）・エンカウンター・レクリエーションなどを行った。	人間関係づくりに意欲的に取り組んでいる。AFPYの手法も取り入れて人間関係づくりに一層取り組んでもらいたい。	A	
		3 年に1回人間関係づくりの学年活動ができ、生活ノートで、毎日の生活について相談・指導ができた。					
		2 年に1回人間関係づくりの学年活動ができ、生活ノートの活用がされなかった。					
		1 年に1回も人間関係づくりの学年活動ができず、生活ノートの活用がされなかった。					
進路指導課	新たな総合的な学習「海峡学」による計画的なキャリア教育・高大連携の推進	学校全体の取り組みとしては、キャリア講演会や面談週間を設定、また、海峡学にて、大学訪問、ゼミ訪問を実施し校内発表会をおこなう。	4 80%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。	4	○ 学校全体でのキャリア講演会、5回生海峡学での大学等ゼミ訪問および表彰を伴う校内発表会、2・3回生では、下関市立大学、山口大学、企業訪問を実施した。 ○ 生徒対象の学校評価アンケートにおいて全校生徒の80%の生徒が進路意識の向上を肯定的に感じたと答えている。	キャリア教育に熱心に取り組んでいる。今後も地域や大学との連携を深めて取り組んでもらいたい。	A
			3 50%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。				
			2 40%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。				
			1 生徒のキャリア意識の向上は十分に認められなかった。				
	各回生における進路検討会の実施	ファインシステムを活用した模擬試験の有効活用を図る。	4 ファインシステムを活用した資料をもとに各回生で進路検討会を複数回実施した。	2	○ 各学年における進路検討会の複数回実施までには至らなかった。実施の在り方を考えたい。 ○ 模試成績状況等の資料提供は随時おこなうとともに、駿台ハイレベル模試の受験者の確保を呼びかけた。また、情報の共有のため模試成績資料の閲覧範囲も広げた。	生徒の希望が実現できたかなど、進路指導に関する課題を検証し、取組の充実を図ってもらいたい。	C
			3 ファインシステムを活用した資料をもとに各回生で進路検討会を1回実施した。				
			2 ファインシステムを活用した資料を各学年に提供することができた。				
			1 ファインシステムを活用した資料の作成に至らず各回生での進路検討会も実施できなかった。				
平成32年度からの新大学入試制度への対応	生徒の進路希望実現に向けて教材活用による小論文基礎力養成、面接指導の充実など積極的に支援を行う。	4 教材活用による小論文基礎力養成および面接指導の充実も図ることができ、国公立大学合格率4割を超えた。	2	○ 小論文指導では、後期生に教材を紹介、小論文模試、小論文セミナー、小論文課外を実施した。 ○ 面接指導では、6回生に対してT・u・学年・進路・管理職が連携をとり面接や集団討論の指導をおこなった。面接や集団討論の生徒用マニュアルが作成され指導に活かされた結果、複数の国公立大学に合格者をだすなど成果があった。	新大学入試制度の導入に向けて、早めの対応がなされている。	B	
		3 教材活用による小論文基礎力養成および面接指導の充実も図ることができ、国公立大学合格率3割を超えた。					
		2 教材活用による小論文基礎力養成ないしは、面接指導の充実が図れた。					
		1 教材活用による小論文基礎力養成も、面接指導の充実も図れなかった。					

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価	
保健体育課	体育大会等学校行事におけるリトルティーチャー制の推進	各種委員会活動等様々な場面を活用して、企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主的活動を推進し、内容のレベルアップを図る。	4	リトルティーチャー制（生徒の指導力を活かした活動）が活用されたとする評価が85%以上であった。	4	○ 各行事での活動や運営の状況については、委員を中心に全校生徒が協力し、充実した成果を上げることができた。 ○ 6回生は89%の高い評価であったが、下級生になるほど評価が低い。前期課程生徒の力が発揮される場面を工夫したい。	体育大会等の行事が充実している。引き続き生徒の自主的活動を推進してもらいたい。	A
			3	リトルティーチャー制（生徒の指導力を活かした活動）が活用されたとする評価が65%以上であった。				
			2	リトルティーチャー制（生徒の指導力を活かした活動）が活用されたとする評価が45%以上であった。				
			1	リトルティーチャー制（生徒の指導力を活かした活動）が活用されたとする評価が25%以上であった。				
	食育を通じた健康管理能力の育成	食に関する調査を実施し、本校の課題を明らかにするとともに、健康委員会や学校保健安全委員会の活動を通じて、健康管理能力の育成を図る。	4	学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が85%以上であった。	3	○ 生徒・保護者ともに、肯定的評価が全体では65%を越えたが、後期課程生徒の評価は低い。後期課程生徒に対する効果的な健康管理能力の育成の方法を一層研究したい。	食育に関する教員と生徒の意識のギャップに課題がある。食育の充実には家庭との連携が必要であり、家庭を巻き込んでの取組に期待したい。	B
			3	学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が65%以上であった。				
			2	学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が45%以上であった。				
			1	学校評価アンケートの生活習慣に関する項目で肯定的な評価が25%以上であった。				
	校内掃除・環境美化の徹底	マニュアル掃除後の見つけ掃除に積極的に取り組ませるなど美化意識や主体的な行動意欲を高める。	4	校内の環境美化に関する項目で肯定的な評価が80%以上であった。	3	○ 肯定的な意見は67%であった。 ○ 見つけ掃除が浸透し、美化意識の向上やボランティア清掃活動の積極的な参加につながった。今後も意識向上に一層努めなければならない。	環境美化に努めていると感じるが、普段の「みつけ掃除」の実践をさらに推進してほしい。	B
			3	校内の環境美化に関する項目で肯定的な評価が60%以上であった。				
			2	校内の環境美化に関する項目で肯定的な評価が40%以上であった。				
			1	校内の環境美化に関する項目で肯定的な評価が40%未満であった。				
寮務課	リトルティーチャー制による、円滑な寮生活の推進	寮におけるリトルティーチャー制により、集団生活に必要な規律を身につけさせ、円滑な寮生活を送ることができるようにする。	4	寮におけるリトルティーチャー制を構築し、寮生が十分に円滑な集団生活を送ることができた。	3	○ 委員会活動を通じて、各行事や、各フロア別の活動を実施する中で、寮におけるリトルティーチャー制が機能し、寮生がおおむね円滑な集団生活を送ることができた。	寮生へのきめ細かな配慮がなされている。今後も円滑な寮生活を送ることができるよう努めてほしい。	B
			3	寮におけるリトルティーチャー制を構築し、寮生がおおむね円滑な集団生活を送ることができた。				
			2	寮におけるリトルティーチャー制を構築したが、寮生が円滑に集団生活を送るまでには至らなかった。				
			1	寮におけるリトルティーチャー制が構築したが、寮生が円滑に集団生活を送ることはできなかった。				
	Web環境の整備による円滑な個人学習環境の充実	寮生に対してきめ細やかな学習指導を行い、学力を向上させる方策の一環として、タブレット型の教材が利用できるような環境を整える。	4	Web環境が十分に整備され、大いに学習意欲が向上した。	1	○ Web環境の整備については、来年度当初の運用に向けて、既に動き始めている。 ○ 現時点では稼動していないため、学習意欲の向上等にはつながっていない。	寮のWeb環境の整備が必要と考えているのであれば、早急に整備を進めてほしい。	C
			3	Web環境が整備され、おおむね学習意欲が向上した。				
			2	Web環境が整備されたものの、学習意欲の向上にはつながらなかった。				
			1	Web環境が整備されなかった。				
中等教育学校推進課	新たな総合的な学習「海峡学」によるキャリア教育の充実	研究のスキルを高める活動を取り入れるとともに、進路への関心を高めることにつながる海峡学を推進する。	4	学校に関するアンケート結果（生徒・保護者・教職員）の該当項目の90%以上が肯定的であった。	3	○ 肯定的な評価は生徒84%、保護者84%、教職員83%であった。 ○ 5回生の高大連携による卒業研究や2、3回生の大学訪問、企業訪問等、新しい取組に一定の評価が得られたと考える。反省を踏まえ、次年度実施計画の詳細を改善していく。	下関中等の特色ある教育活動の一つとして意義ある取り組みである。今後も「海峡学」によるキャリア教育の充実に取り組んでもらいたい。	A
			3	学校に関するアンケート結果（生徒・保護者・教職員）の該当項目の70%以上が肯定的であった。				
			2	学校に関するアンケート結果（生徒・保護者・教職員）の該当項目の50%以上が肯定的であった。				
			1	学校に関するアンケート結果（生徒・保護者・教職員）の該当項目の50%未満が肯定的であった。				
	国際交流活動や留学・海外研修によるグローバル人材の育成	総合的な学習の時間（東アジア文化入門）、海外派遣事業、諸外国からの学校訪問受入等を積極的に行う中で、国際交流のリーダーとなる生徒を育てる。	4	学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の90%以上が肯定的であった。	4	○ 肯定的な評価は、生徒88%、保護者90%、教職員97%であった。外国からの訪問団との交流を4回実施した。交流した学年が限定されるため、生徒の評価がやや低い。 ○ 米国からの留学生受入で良い影響が随所にみられる。海外派遣生徒は例年より多く、全体的なグローバル人材の育成に良い影響を与えている。	国際交流や留学について、今後も取組を充実させてほしい。	A
			3	学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の70%以上が肯定的であった。				
			2	学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%以上が肯定的であった。				
			1	学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%未満が肯定的であった。				
	教員研修体制の確立	一人一研究授業を実施することにより、主体的・協働的な学びを推進する。	4	90%以上の教員が一人一研究授業を実施する。	2	○ 月1回の教科研修会と一人一研究授業によって研究を試みた。 ○ 研究授業実施率は2教科において全員実施したが全体では6割程度にとどまった。次年度に向け、一人一研究授業の完全実施と、他学年他教科の授業見学がこれまで以上に可能となる研修体制を整えていきたい。	全教員が一人一研究授業を実践し、指導力の向上と生徒の主体的・協働的な学びを推進してほしい。	C
			3	70%以上の教員が一人一研究授業を実施する。				
			2	50%以上の教員が一人一研究授業を実施する。				
			1	50%未満の教員が一人一研究授業を実施する。				
アクティブ・ラーニングによる主体的・協働的な学びの実践	定期的な教科研修会の実施と夏季休業中の全体研修会を推進する。	4	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を各教科で実施でき、研修会において十分に協議し、一定の方向性を見出すことができた。	3	○ 月1回の教科研修会において、すべての教科で研究授業を題材にアクティブ・ラーニングについて協議した。 ○ 教科によってはある程度のかたちが見えてはきているが、今後も引き続き研修する必要がある。	主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）による授業改善を推進してもらいたい。	B	
		3	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を各教科で実施でき、研修会において十分に協議できた。					
		2	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業をほとんどの教科で実施でき、研修会において十分に協議できた。					
		1	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を一部の教科で実施でき、研修会において協議できた。					

分掌	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価	
1 回生	学習指導	主体的な学習習慣を確立し、基礎学力の定着	課題の提出を確実にする。	4 生徒全員が期限を守って提出できた 3 期限を守って提出した生徒が90%以上であった。 2 期限を守って提出した生徒が80%以上であった。 1 期限を守って提出した生徒が70%以下であった。	3	○ 提出期限を守って課題を提出できた生徒は、ほぼ90%であった。 ○ 全体指導したこともあり、課題にきちんと取り組もうという意識は向上しつつある。冬休みの課題提出はかなり向上した。	生徒は熱心に学習に取り組んでいると感じられる。	B
	生活指導	一人ひとりが活躍できる場の設定による豊かな人間性と望ましい集団の育成	学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画・運営させることにより、自己有用感を育て、望ましい集団の育成を図る。	4 生徒主体による学年活動・委員会活動を学期に3回以上実施した。 3 生徒主体による学年活動・委員会活動を学期に2回以上実施した。 2 生徒主体による学年活動・委員会活動を学期に1回以上実施した。 1 生徒主体による学年活動・委員会活動ができなかった。	3	○ チューター代表を中心にして学年活動を実施した。企画・運営から生徒自身に取り組ませ、立派に自分たちの力でやり遂げた。 ○ 日々の学校生活を向上させるため、「あいさつ運動」や「身だしなみチェック」を生徒たちが企画し、取り組んだ。規則正しい学校生活を送ろうという意識が向上した。	1 回生の人間関係づくりには特に力を入れてもらいたい。	B
2 回生	学習指導	基礎・基本の定着と発展的な学力を支える自己学習力の伸長	家庭学習の確実な習慣化のために生活記録、朝学問題集、授業提出物を丁寧に評価する。個に応じた指導のため必要に応じて補充学習をおこなう。	4 生徒の9割が、質が高く、確実な課題の提出ができた。 3 生徒の7割が、質が高く、確実な課題の提出ができた。 2 生徒の5割が、質が高く、確実な課題の提出ができた。 1 生徒の4割が、質が高く、確実な課題の提出ができた。	3	○ 朝学では、質の高い課題の提出がほぼ100%できた。毎回、きめ細かな指導と評価を行い、評価が低い生徒には補充学習を実施した。 ○ 各教科の宿題・長期休業中の課題・総合的な学習のまとめの提出についても、質が高いものが確実に提出できるように努めた。	朝学を実施するなど自己学習力の伸長が図られている。	B
	生活指導	自己有用感を得られるような活動による豊かな人間性と自主性の育成	学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画運営させ、相互に評価させることで、リーダーと望ましい集団の育成を図る。	4 生徒の9割が、活動に対して、充実感を感じている。 3 生徒の7割が、活動に対して、充実感を感じている。 2 生徒の5割が、活動に対して、充実感を感じている。 1 生徒の4割が、活動に対して、充実感を感じている。	4	○ 生徒が企画したLHRを9回開催し、多くの生徒が達成感を感じている。 ・生活の区切りごとの学年集会3回。 ・美化活動1回 ・スポーツ大会や、レクリエーション大会5回。 生徒の生活記録の記述から、高い満足度をうかがえる。	行事等に意欲的に取り組んでいると感じられる。生徒の高い満足度を示すデータが示されるとよい。	A
3 回生	学習指導	学習サイクル・習慣の定着	朝学の取組による学習サイクルを確立する。	4 朝学の取組により、学習習慣を定着させることができた。 3 朝学の取組により、学習習慣を定着させることがおおむねできた。 2 朝学の取組により、学習習慣を定着させることがあまりできなかった。 1 朝学の取組により、学習習慣を定着させることができなかった。	3	○ ほとんどの生徒が以下の①～④のサイクルで朝学に取り組めた。一部の生徒に開始間に遅れたり、ノートの未提出があったため、継続的な指導を続けた。 8：15 着席・プリント配付 8：20～8：30 プリント学習 ①教科・範囲の予告 ②問題集で家庭学習 ③朝学（小テスト） ④朝の会でノート提出	熱心に学習に取り組んでいる。学習習慣が定着しつつあると感じられる。	B
	生活指導	リーダーの育成	生徒主体の委員会・集会活動を推進する。	4 生徒主体の委員会・集会活動を学期に3回以上実施した。 3 生徒主体の委員会・集会活動を学期に2回程度実施した。 2 生徒主体の委員会・集会活動を学期に1回程度実施した。 1 生徒主体の委員会・集会活動を実施できなかった。	4	○ 生徒主体の委員会・集会活動を5回企画し、実施した。 ○ 教科係・委員会で企画したもの、学年集会として企画したものなど、いろいろな立場の生徒が活動を運営することで、活躍の場が広がり、生徒による積極的な活動の場を設けることができた。	生徒が自主的・主体的な活動を行っていると感じられる。	A
4 回生	学習指導	進路意識を醸成	学年集会等を利用して進路意識を高める	4 上級学校への進学希望者の割合が95%以上である 3 上級学校への進学希望者の割合が90%以上である 2 上級学校への進学希望者の割合が80%以上である 1 上級学校への進学希望者の割合が80%未満である	4	○ 上級学校への進学希望者の割合は95%と目標値に達した。国公立大学志望人数も増加傾向にあり、今後に期待がもてる。 ○ 学力向上を推進するとともにキャリア教育等を活用し、高い進路目標を掲げる生徒を増やしていきたい。	高い目標を設定して、進路意識の高揚に一層努めてもらいたい。	A
	生活指導	ルールやマナーを遵守する態度の育成	授業開始時間を厳守させる。	4 授業の開始時間が守られていた。 3 授業の開始時間がほとんど守られていた。 2 授業の開始時間を守れないことが多く見られた。 1 授業の開始時間を守る態度が身につかなかった。	3	○ 授業の開始時間はほとんど守られていた。日々の授業に真剣に取り組んでいる生徒の割合も93%と高い。	授業規律を定着させることを通して規範意識の醸成に努めてもらいたい。	B
5 回生	学習指導	進路目標の明確化	個人面談を充実する。	4 チューター以外の教員による面談も含めて、個人面談を年5回以上行う。 3 チューターによる個人面談を年3回以上行う。 2 チューターによる個人面談を年1回以上行う。 1 チューターによる個人面談が年1回未満である。	4	○ チューター、学年主任、学年所属教員との面談をあわせて、生徒一人につき8回程度の個人面談を行った。複数の教員とかわかることにより、生徒の進路目標が具体化したように感じる。	個人面談を重ねることで、個に応じた進路指導の充実が図られていると感じる。	A
	生活指導	落ち着いた雰囲気醸成	時間厳守を徹底する。	4 授業をはじめ、学年集会、全校集会など、ほぼすべての行動に対して時間厳守を徹底した。 3 全校集会や学年集会においては時間厳守を徹底した。 2 全校集会においては時間厳守を徹底した。 1 時間厳守の意識づけはしたが徹底できなかった。	3	○ 授業開始時間は概ね守っていたが、一部の生徒においてチャイム後に着席をしたり、教材の忘れ物をしたりしていた。 ○ 全校集会や学年集会における集合状況は非常に良かった。（学年集会13回実施）	学校生活全般の指導を通して規範意識の醸成に努めてもらいたい。	B
6 回生	学習指導	希望進路実現のための学力向上	朝学・課外に積極的に取り組む。	4 朝学・課外に、積極的に取り組んだ。 3 朝学・課外に、ほぼ積極的に取り組んだ。 2 朝学・課外に、あまり積極的に取り組めなかった。 1 朝学・課外に、積極的に取り組めなかった。	3	○ 一学期の朝学はほぼ全員で実施ができた。二学期は希望者としたが、配付プリントが残ることもあった。 ○ 定期の課外・夏季学習合宿・冬季休業中・2月に入ってから課外も生徒は積極的に参加した。年間を通しての継続的な指導は、各自の学力向上の一助となった。	生徒一人ひとりが目標に向かって熱心に取り組んでいると感じる。	B
	生活指導	最上級生としての自覚を持った行動	部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつける。	4 部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつけた行動がとれた。 3 部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつけた行動がほぼとれた。 2 部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつけた行動があまり取れなかった。 1 部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつけた行動がとれなかった。	3	○ 各部活動引退後、気持ちを切り替えて受験に取り組む姿勢を持つことができた。 ○ 早期に進路が決定した生徒の中で、目的意識を失い、学校生活への取り組みが不十分になる生徒もいた。	6年間の指導により、リーダーシップを発揮できる有用な人材の育成をお願いしたい。	B

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

(1) 確かな学力の保証

- 昨年度から学力面のデータ分析に取り組んできたが、今年度になり少しずつ学力は向上してきた。今後とも一層学力向上に取り組むたい。
- 6年間の系統的な教科指導体制の推進
 - ・月1回の教科研修会と一人一研究授業によって、教科指導力の充実に取り組んだ。
 - 系統的な指導について教員の共通理解が進んだが、まだ十分とはいえない。
- 教育課程のさらなる改善
 - ・新大学入試に対応するため、前期課程の授業時数の改正、後期課程の科目選択について改正を行った。
 - ・新教育課程について研究を始める必要がある。
- アクティブ・ラーニングによる主体的・協働的な学びの推進
 - ・全教科でアクティブ・ラーニングの研究授業を実施し、研究協議を繰り返すことで、次第に具体的な方途が確立しつつある。
 - その成果を実践事例集にまとめることができた。
- ステップアップノートなど予習、授業、復習の徹底による学習習慣の確立
 - ・学校評価アンケートの「毎日十分な家庭学習をしている」という質問への肯定的評価は、生徒61%、保護者50%、教員35%であった。
 - より一層の取り組みが必要である。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 大学や地元企業と連携しながら、生徒が明確な将来像を描く取り組みを今年度から本格的に始めた。さらに充実を図りたい。
- 生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすきめ細かな指導の充実
 - ・科目選択に関する説明会を2年生以上の各学年で複数回実施し、生徒一人ひとりに応じた科目選択指導を行った。
 - ・各学年で、生徒一人ひとりの進路について検討会を実施し、きめ細やかな指導に努めた。
- 総合的な学習の時間「海峽学」などによる明確な進路意識を醸成するキャリア教育の推進
 - ・前期課程で、市内の企業や山口大学・下関市立大学を訪問し、進路意識を高めた。
 - ・後期課程で、山口大学・山口県立大学・山口東京理科大学・下関市立大学等をゼミ訪問し、卒業研究の指導を受け、大きな成果をあげた。
- 進学実績の向上
 - ・きめ細やかな指導を行うことで、国公立大学に3割弱、4年生私立大学に6割を超える生徒が合格した。
- 新たな大学入学者選抜制度に対応した教育内容の充実
 - ・小論文対策・面接対策に組織的に取り組み成果をあげた。
 - ・作成された面接。集団討論の生徒用マニュアルが指導に生かされた。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身につけた生徒の育成

- 各分掌・学年で人間教育に取り組み、着実に成果をあげている。
- 豊かな人間性と行動力を持ち、社会に貢献できる人材を育む学校づくり
 - ・学校行事や学年行事で、生徒が主体となる活動の場を多く設定し、望ましい集団の育成に努めた。
 - ・三菱重工業株式会社下関造船所、レノファ山口、日本銀行下関支店からトップを招き、PTA主催のキャリア講演会を年3回実施した。
- 国際交流活動や留学の推進
 - ・「東アジア(韓国・中国)文化入門」や、海外派遣事業、アメリカ・韓国・中国からの学校訪問受入を積極的に行った。
 - 国際交流に対する意識が高まった。
- 生徒会・学校行事等におけるリトル・ティーチャー制の推進
 - ・各種行事において、リトルティーチャー制を取り入れ、生徒の企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主活動を推進させることができた。
 - ・寮生活においてもリトルティーチャー制を取り入れることで、自立心が育ち、円滑な生活を送ることができた。
- ボランティア活動の推進
 - ・ひこっとランド海岸清掃ボランティア・熊本地震義援募金活動・トイレ掃除ボランティアなどに多くの生徒が参加したが、一層の充実が求められる。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 全教員がリスクマネジメント意識を持てるように今後とも計画的に研修に励まねばならない。
- 危機管理体制の改善・充実
 - ・生徒指導や危機管理体制については、学校安全防災計画、いじめ防止基本方針等に従い、これまでどおり充実した体制で取り組むことができた。
- 計画的な研修による教職員の資質向上
 - ・生徒指導委員会、道徳・人権教育推進委員会、教育相談・特別支援連絡委員会、性教育推進委員会については、計画的に実施した。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 志願倍率が1.5倍に増加するとともに、辞退者が大きく減った。
- 学校説明会の充実
 - ・本校の教育活動をわかりやすく伝えるために、本校の教育活動全体を「飛翔プロジェクト」と名付け、広報活動に努めた。
 - ・学校行事等で学校説明会に来校できなかった児童の小学校に出向くとともに、塾等にも出向き児童・保護者対象の説明会を実施した。
- 学校HP・マスメディア等を活用した情報発信の充実
 - ・学校HPを刷新し、頻繁に更新をすることで、昨年度1万5千回だった閲覧回数が今年度は1月末で3万回を超えた。
- おいのやまサイエンスセミナー、小学生英会話教室の充実
 - ・児童に対して周知を徹底する等の取り組みをしたが、おいのやまサイエンスセミナーに200人、小学生英会話教室に14人の、例年どおりの来校者数であった。

7 次年度への改善策

次年度は、「未来社会を生き抜く総合的な人間力」と「高い学力」を培い、世界に飛躍する人材の育成に向けて、地域や大学との連携を深めながら、中高一貫校ならではの教育活動の充実に努める。

(1) 確かな学力の保証

- 次期学習指導要領に基づいた教育課程の編成を完成させる。
- 各学年で朝学を取組を充実させるとともに、授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善充実を図る。
- 寮のWeb環境の整備を行い、寮での自学自習を充実させる。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学ゼミ訪問や企業研究等の取組を一層推進していく。
- 各学年で模擬試験結果などの進路データを有効に活用した進路検討会を実施する。
- 本年度整理した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身につけた生徒の育成

- 生徒会、学校行事、寮におけるリトルティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
- 留学に関する校内の規定を整理し、短期留学を含めた留学を促進する。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 教科研修会と一人一研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、教職員の指導力の一層の向上を図る。
- 校務分掌業務を精選し、業務の改善を図ることで、組織全体の活性化を図る。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実を図る。
- 小学生を対象とした、おいの山サイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実を図る。